

日本国際地域開発学会沿革等

1. 目的と背景

本学会の目的は、国の内外における自然、経済、社会の開発と保全に関する諸科学を研究し、国際地域開発の進展を図ることにある。会員はこの趣旨に賛同し、総合的、境界領域的な科学の解明に取り組んでいる。

その背景には、今の時代は、人類が未だかつて経験したことのない深刻な社会的、経済的、政治的、そして生態学的な危機に直面するに至っているという事実と、その科学的研究を行う必要があるとの認識がある。そして、地球規模での生態環境保全、開発途上地域の開発、農林業の持続的発展と開発など、解決すべき課題は多い。そうしたなかで、本学会は、「国際地域開発学」の研究活動を通して寄与することを目指している。

この分野は、科学の一分野であり、決して幅広くはないが、会員はその社会的使命と重要性を十分認識し、研究活動に取り組んでいる。

また、本学会の性格が総合科学、応用科学であるため、他の専門学会に所属している会員も多数おり、多岐にわたる「国際地域開発学」の学術研究に活躍している。

2. 歩み

日本国際地域開発学会は、拓植学及び国際地域開発学を学術的に探求する学会として、名称を「日本拓植学会」として、1966年に設立され、今日40周年を迎えるに至った。

1990年には社会ニーズにふさわしい学会名として、「日本国際地域開発学会」と改称された。それに伴って、学会誌も、名称を「拓植学研究」から「開発学研究」へと改められた。「拓植学研究」は33号を、「開発学研究」は第1巻1号より第17巻第1号となり、通巻70号を数えている。

その歩みは、かつては大学紛争や拓植学会時代には拓植学に対する学術的認識など決して平坦なものではなかったが、会員のたゆまぬ努力の結果、1983年には日本農学会に加盟し、さらに日本学術会議に登録された。そして、農業総合科学研究連絡委員会及び地域農学研究連絡委員会への参加が認められ、国際地域開発学を分担し、シンポジウムの研究活動を行っている。

3. 活動

本学会は「国際地域開発学」の目的と成果を達成するために各種の事業を学会活動として行っている。

それは①学会誌「開発学研究」の年3回の刊行、②春季・秋季の年2回の大会における学術講演会、シンポジウム等の開催と個別報告、③研究の奨励及び表彰、④内外関係機関、諸団体などとの連絡連携である。

特に、シンポジウムにおいては、毎回「国際地域開発学」の今日的な重要課題を統一テー

マとして設定し、討論を深めている。さらにシンポジウムの基調報告は、講演者から特別報告として「開発学研究」にご投稿をお願いし掲載している。